



平成二十九年一月二十日
皇紀2677年
(西暦2017年)
第139号

発行：淀姫神社社務所
〒859-4501
松浦市志佐町浦免632
TEL・FAX 0956-72-0653

早いもので一月も下旬です

寒くなりましたねえ

これを書いてるのは一月の二十日です。毎回「早いもので」と書いてるような気がいたしますが、もう一月も下旬となりました。皆さまにはいかがお過ごしでしょうか。

さて、これを書いてる時点では、今シーズン第一級の寒波が到来し、日本をすっぽりと覆っています。北海道や東北、北陸地方では、とんでもない豪雪に見舞われているところもあって、被害も出ているようです。

ここ松浦地方では、昨年の今頃に強烈な寒波によって、あちらこちらで凍結が起こり、水道管の破裂も各所で起きました。復旧には時間がかかり、不便な生活を強いられた方も多くいらっしゃいました。

今年はそういう被害が起きないように、水道を使う私達も、より注意しなければなりません。テレビなどで気象情報をこまめにチェックして、もしものときに備えるように気をつけましょう。



二月の豆まき節分です

さて、もうすぐ「節分」がやってきます。今年は二月三日が節分の日になります。「節分」については、以前も書いたことがあるような気がしますが、おさらいもかねて改めて。

◆「節分」とは？

立春・立夏・立秋・立冬の日の前日。ということ、節分は年に4回あります。なかでも「立春前の節分」が大きく取り上げられていて、他の季節の節分が目立っていないというのが、本当のところではなせ「立春前の節分」ばかりが大きく取り上げられるのかといいます。

◆立春前の節分

旧暦の時代は、新年を迎える特別な日。旧暦では「春という新年」を迎える前日、つまり今でいうところの大晦日と同じような特別な日でした。そういうことから、特に「立春前の節分」が大事な日として、いろいろな行事が行われるようになりました。たとえば「鬼は外、福は内」というかけ声とともに豆をまく風習が今でもありますが、

これらの行事が執り行われるのは「新年を迎える前に邪気を祓う」という意味があるためです。

また、立春が「年の初め」ということで、その日を境に「年を一つ」とも言われています。

そのため、豆まきの後には「年の数より一粒多く豆を食べる」という風習も残っています。

このようなことから、「立春前の節分」がとりわけ大事にされてきて、それは今も受け継がれています。

最近では「恵方巻き」などもあちらこちらのお店で当たり前のようになら販売されています。この恵方巻きも「その年の恵方に向かって願い事を思い浮かべながら無言で食べる」とされています。

これもまた「年の変わり目」を迎える意味合いがあるかと思えます。

今は次第次第に薄れつつあるものだと感じますが、こういった意味や風習などは、これからますます残っていくものですね。



淀姫神社インターネット公式サイト「淀姫神社WEB」 <http://yodohimejinja.com/>

各種最新情報・blog「淀姫日記」にて「お祭りレポート」などなど、内容盛りだくさんでお送りしています。ぜひともチェックしてくださいませ。